食科協 20 周年に寄せて

運営委員　立石亘

　食科協の設立 20 周年を心よりお祝い申し上げます。食品安全のリスコミに食科協が果たす役割は非常に大きく、皆様の活動に深く敬意を表します。

　私は四半世紀ほど前、バリバリイカのサルモネラが話題になった頃、雑誌の編集者に転職し、以来、一貫して食品微生物と衛生管理の周辺を徘徊しています。初めて食科協を取材したのは 10～15 年前かと思いますが、現在は縁あって運営委員として参加しています。専門家が揃う食科協の中で、どのような情報発信が求められているのか、試行錯誤の日々です。論語では「四十にして惑わず。五十にして天命を知る」とありますが、平均寿命が延びた現代では不惑や知天命に至るには、もう少し年齢を重ねる必要があるのかもしれません（笑

　2020 年 1 月、食科協の先生方のご指導を頂きながら「食品衛生研究」に寄稿する機会を頂きました。この寄稿は、EU 委員会が HACCP 義務化から 10 年を振り返ってまとめたレポートを参考に、「これから HACCP 義務化を進める日本では、EU と同じ轍を踏まないように、先人の経験を“他山の石”としましょう」という意図でまとめたものです。内容を端的にまとめると「EU と同様、今後日本でも『ハザード分析と CCP の理解不足』『HACCP と前提条件プログラムの混同』『検証の理解不足』に直面する」という、近未来に向けた予言……もとい提言でした（私見や私情もふんだんに盛り込んでいますが）。

　この背景として、私自身の HACCP ワークショップ（WS）の受講体験があります。実は、私は演習付き WS を複数回受講しています。1 回目は 20 年以上前、同じチームにサクサクと演習を進める人がいて、一言も喋らないうちに 3 日間が過ぎてしまいました。2 回目は「少し HACCP を知っている」と勘違いしていたようで、演習でも発言はしていましたが、発表後の講評では「ハザード分析（HA）と CCP の理解不足のため、HACCP と一般衛生管理を混同してハザードを“ベタ抑え”している。典型的な HACCP を理解していない人の間違え方」と酷評を頂きました。1 回目の WS で何も学んでいなかったことを露呈したわけですが、結局、この時に酷評されたことは、食品衛生研究の寄稿で書いた内容と大差はなかったように思います。つまり、食品衛生研究に寄稿した内容は「EU の反省」であると同時に、私自身の反省でもあったわけです。

　HACCP に関する誤解と理解を自分自身で体験したことは、その後の食品衛生関連の取材でも多少は役立ったと思います。今までの取材で印象的な言葉の一つに 99 年の冬、検査キット会社の社長が話した「国は企業を助けてくれない」という一言を覚えています。行政を信用しないとか、そういう意味ではありません。「最後の最後は誰も助けてくれない」「自分を助けるのは自分だけ」という経営者の心に触れたと思っています。「民間企業である以上、生殺与奪の権を他人に握らせてはならない」「企業が生きるか死ぬかは自己責任でしかない」「HACCP は企業経営のツールである。その HACCP で消費者を守れるのか、その HACCP で従業員の生活を守れるのか」など、HACCP はそういった心で取り組むものなのかも……とその日から今日まで考え続けています。

　もう一つ印象的だった取材は 2007 年、当時厚生労働省にいらっしゃった加地祥文課長へのインタビューで、「総合衛生管理製造過程（マルソウ）と HACCP をきちんと区別して理解してなければ『マルソウも HACCP も大した効果はない』という誤解を招く。マルソウは HACCP をベースにした仕組みであるが、HACCP とは異なる目的も持つ。マルソウはあくまでも食品企業の選択肢の一つに過ぎない」という談話を頂きました。本来は規制緩和の目的で制定されたマルソウと、企業の自主管理としての HACCP。その違いを、

当時の業界誌・業界紙の中では最も明確に表現できたと思っています。このインタビュー内容は、15 年経った今でも私の記事制作の軸に据えられています。

2017 年、吹雪の北海道で訪問した、自力で FSSC 22000 を取得した数人規模の菓子工房も忘れられない鮮烈な印象があります（大雪で記憶に残りやすかったのかも？）。食品安全チームリーダーは「検証を学んだ時に HA の重要性を理解できた。HA の重要性を理解した時に FSSC の本質に触れた気がした」と話していました。漫然と教わるのではなく、独学で苦しんだからこそ辿り着いた境地なのかもしれません。FSSC を「自社のための武器」「自社だけの武器」として、経営のツールとして使えるという確信を持っていると感じました。

2004 年頃、私にとって憧れの哲学系ライターの言葉を（無断で）借りて「口当たりの良いことを言う人が、優しい人とは限らない」と書いたことがある。他人を信頼することは尊いが、依存すると危険を伴う。ヤクルトスワローズの高津臣吾監督ではないが「絶対に大丈夫」と自分自身を信じ、その信念の中で「自分だけの HACCP」を経営に組み込むことが、企業の繁栄につながる道を拓くのではないでしょうか。私の HACCP の恩師は常に「報道は正しい道を、王道を行け」と諭されている。科学的に正しい情報がまかり通る社会でなければならない――それは食科協と共有している理念のはず、と思っています。